

フレッシュマン・オカザキのインド通信

YKD値上げ！？

安価なインド産黒御影の代表格、「YKD」の丁場が値上げを断行しました。中国工場では各社ともまだ旧在庫が有りますので、まだ製品単価の値上げはされて いません。誠に申し訳ありませんが、近々値上げをお願いする事になりそうです…。

今回は、インド黒!と注文して一番に候補として挙がる、そのYKD丁場について詳しくお伝えしようと思います!

国営企業であるの「タミン」が運営しており、ここまで整備・管理が行き届いている丁場は珍しいと言えます。それが良い事か悪い事かは別として、ですが…。

丁場は山の“**頂上**”と“**ふもと**”の二つに堀口が分かれており、それぞれ違った番号を振って分けています。以前より、ふもとの石は切削して磨いてから出てくる油玉なるものがあり、日本向けや中国工場向けの墓石材としては使用できないので弊社でも常に頂上の堀口の石を購入しています。欧米向けの建築材料としては関係なく出荷されていますが…

下の写真をご覧ください!



↑頂上の堀口



↑ふもとの堀口

黒御影には珍しく大きいブロックも多く出ており、2.5m*1.5mほどの規格は欧米でキッチンカウンターとして使われ、人気があるようです。ブロックの大きさごとに細かく単価が分かれており、2.5m*1.5mの規格は通常単価(0.5~1.499cbm/個)よりいくらか割増した価格設定がされています。



↑丁場事務所にはタミン社の看板



↑2m*3m はあいそうなブロック。

「YKD」は品質に関しては間違いなく1級品です。 丁場の経験豊富な職人によりほとんどの問題は省かれており、原石の端に入ったキズを見つけ、寸法を少し引いてもらうことはあってもクレームが起きる事はほとんどありません。



↑色も濃い手でほぼ揃っています。

さて、ここまでがYKDの良い点でした。しかし、インドの丁場がそんなに甘いわけはありません…。最大の問題点は、我々、検品員泣かせという事です。。

タミンの経営する丁場は基本的に条件に対する譲歩が一切ありません。交渉を試みても必ず拒否されてしまいます。丁場のオーナーや管理者により異なりますが、他の丁場であれば「色が気に入らない」、「この石はキズが入っていきそうだ」等の理由でブロックを選んだら寸法を少しオマケしてもらいたいと時々交渉が出来ます。

YKDはタミン経営の中でも特に厳しく、ブロックを選ぶことは出来ず、寸法を変えたいすることが非常に難しいです。ほぼ全て番号順に、丁場が測った寸法でしか購入することが出来ません。私は毎度行く度に寸法切れなどがあってはいけませんので交渉を試みますが、ほとんど喧嘩のような言い合いになってしまいます。。

(笑)

とはいえ、品質自体は非常に良いのでオススメである事に変わりはありません。原石のご入用がある場合は、時期と納期に少し余裕を見てご注文頂ければと存じます。現場では値上げこそしましたが、扱いやすい石ですのでご自身で加工されると、中国から製品を購入するよりメリットが出るかと思えます。また、輸出オンリーの丁場なので、インド国内の工場でも手に入れることは出来ません。是非ご一考を。

単価などの最新情報は弊社担当営業員まで問い合わせ下さい！

さて、今回のネタはトランプ政権と米印関係についてです。

トランプ政権の誕生は、日本でもその影響が吉と出るか凶と出るかとても話題になっています。では、インドへの影響はどんな事が考えられるのか。トランプ大統領の意向とは。日米関係だけでなく、米印関係にも目を向けてみましょう！

アメリカには現在、インド系米国人が 320 万人ほどいます。加えて 130 万人ほどのインド国籍の人たちが長期で働いており、広義の在米インド系人口は 450 万人ほどに上ります(日系アメリカ人、在米日本人は約 120 万人)。

また、トランプ政権にはなんと二人のインド系女性が要人に指名されているのです。

一人目は国連大使に指名された、ニッキー・ヘイリー(Nikki Haley)氏です。ヘイリー氏自身は米国生まれのクリスチャンですが、両親は共にインド・パンジャブ州から米国に移住したシーク教徒(ターバンを巻いているのが特徴的)です。ヘイリー氏は共和党员ですが、今回の大統領選ではトランプ氏に批判的な発言をする政治家で

した。にもかかわらず、トランプ氏がヘイリー氏を国連大使に指名したのは、アジア系移民、女性の代表的政治家として評価したからとも言われています。

二人目は保健福祉省の一部局であるメディケア・メディケイド・サービスセンターの長に指名された、シーマ・バルマ(Seema Verma)氏です。バルマ氏は2001年に医療政策のコンサルティング・ファームを設立した起業家で、トランプ大統領とは元々親交があったとされているそうです。



↑シーマ・バルマ氏



↑ニッキー・ヘイリー氏

また、メキシコ人などの移民労働者やイスラム教徒、そして中国など新興国・途上国全般に厳しい姿勢を示してきたトランプ大統領ですが、インドには愛想がいいと言われています。苦戦が伝えられた選挙戦終盤の10月には「私はインドとヒन्दゥー教の大ファンだ」などとリップサービスをしたとか。また、インドの祝祭日に合わせてテレビ・キャンペーンに登場、自らヒンディー語で挨拶して、インド系アメリカ人に支持を訴えたそうです。アメリカ国内だけ出なく、トランプ大統領とインド・モディ首相はイスラム過激派との闘いという共通の課題を抱えている

ので、といわけ右派ヒンドゥー勢力保守層の間でトランプ氏の評判はいいようです。



↑インド国内で行われた、極右派によるトランプ大統領の誕生日パーティー

パネルのトランプ氏にケーキを食べさせてあげる極右派のリーダー…。

動画もありました↓

<https://www.youtube.com/watch?v=C7UPHgz0bR0>

13億の人口を擁し130万の軍隊とITなどのソフトパワーを持つインドは、アメリカにとって価値ある同盟国になり得るのでしょう。また、インドには歴史的にも宗教的にも対峙している、ムスリム国家・パキスタンがいます。インド国内にも1.72億人の穏健なイスラム教徒がいますが、ジハード(神アッラーの為の聖戦)の風潮から無縁ではありません。これまでに国内でも約70名のIS支持者が逮捕されています。前々回のメルマガでもお伝えした、モディ首相による急な**高額紙幣廃止政策**もイスラム過激派組織の資金源を絶つ目的でもあります。アメリカ・ヨーロッパ勢がイスラム過激派阻止とムスリムの穏健化に成功すればそれはインドにとって大きな利益となります。

こうしたことから、今後の米印関係が日米・日印関係に影響を及ぼす事は間違い

あいません。その時日本はどの立場にいるのでしょうか。。。今後も注目していかなければなりませんね！

それでは今月はここまで。最後まで読んで下さり、有難う御座いました！

オカザキ